

みんなに送るメッセージ

山谷 真理子

私が高校生講座に加わったのは、高校2年の夏くらいだったと思う。今から3年以上も前になる。あの場で初めて伸さん(地球号代表)たちに出会い、以来、あれよあれよと言う間に今日まで来たが、本当に色々な人たちと出会ってきた。

今回、みんなに送るメッセージとしてここで何を書こうか悩んだけれど、やっぱり、あまり講座中に語れなかった一期生の講座体験談を書くことにした。

私の年の参加者は5人で、けれど私はスタッフ兼任だったので、実質は参加者4人でのスタートだった。この4人が、みんな個々それぞれで、よく言えば個性派ぞろい、悪く言えばてんでバラバラなメンバーだった。女子校の生徒会長があるかと思えば、演劇部の舞台監督はあるし、唯一の男は...とまあそんなメンバーでスタート。伸さんたちは、きっとあの頃このメンバーを見て、講座の行く末を案じて悩んでいたに違いない、と今振り返って思う。けれど、本当に楽しかった。何がよかったかって、想いがあった。やる気があった。それがよかった。

それぞれが興味を持っていることは違ってはいたけど、それをお互いに出し合って、語れる時間がとても楽しかった。最後の発表の時も、自分の思いにこだわった力作がそろった。

“生命”をテーマに自作の一人芝居をやったり、自分の家の家業であるカキの養殖とからめて、海のことの発表をしたり、アフリカの環境破壊の文献調査をしたり、アウトドアブームについての考察や提案があったり。当日、どうしても来れなかったけど、町の役場へ通って、自分が泳いでいた川の水質の移り変わりを調べたり...

それぞれに聞きがいがあって、時間があっという間に過ぎた。講座自体もあっという間に過ぎた気がする。

この5人のうちの4人は、ひょんなことからその後、地元テレビ局の1時間特別番組の主役(?)となり、テレビ出演まですることになった。そしてその後、演劇部の彼女にはスカウトの話が来て、女優への道を歩んでいる...なんて世の中そんなに甘くない。けれど、特別番組の話は本当だ。

まあ、それはいいとして、その演劇部の彼女は今、長野の大学でずっと勉強したがっていた林業のことを学んでいる。今も時々くる彼女からのエネルギー手紙は、私の元気のもとだ。

あれから5人で会うことはほとんどないし、音信不通になってしまった人もいるけど、“存在だけで勇気づけてくれる友達”とでも言うか、たぶん10年ぶりとかでばったり会っても「キヤー!! どおーしょーったん!!」とか言って話ができるんだろうなあと思う。別にこの講座で会った人に限らないけど、友達はいいもんだ。出会っていいもんだと思う。どうか、この講座に来ようとした最初の気持ちを大切に、その気持ちの上に色々なものを積み上げていって下さい。

最後に、3年以上経っちゃいましたが、伸さんをはじめ、この講座を開くために尽力頂いたみなさんに、改めて「ありがとうございました」5人を代表して...

受講生のみなさんへ

伊藤 孝子

たんぽぽに 蓬 おおばこ のげしの天ぷら

ささやかな膳 味のゆたかさ

(身近な自然を摘んでくる)

城山の ほんの杣道若きは 道なき道を 難儀するなり

(身近な自然が遠くなっちゃった)

錦帯橋の 川に委ねる カヌーの運び

平和よ続け 未来の地球に

(身近な自然が呼んでいる)



～環境社会心理学へのチャレンジ！！～

その1：卒論報告 & 高校生講座での結果

前田洋枝

こんにちは。『地球号』への登場は2回目になります、前田です。vol.1の書評で大人の皆様を前に漫画を紹介したふとどき者(?)といえ思い出していただけるでしょうか？

今回は少しまじめな話をするようになります。私は1998年3月に広島大学教育学部心理学科を卒業し、4月から広島大学大学院教育学研究科心理学専攻に進学したのですが、少しでも環境問題の解決のために自分の専門が生かせればと思って、卒論で環境問題に対する態度と行動の関係や『環境講座』の効果について研究しました。

“やる気はあるけれど実際の行動が伴わないのはなぜか？”という問題は環境問題に限ったことではなく、態度と行動の関係の研究は社会心理学で昔から行なわれています(といっても心理学が科学として成立してからまだ100年あまりですが)。

今回私の卒論では環境問題に対する態度を測定する尺度としてThompson & Barton (1994)のEAS (Environmental Attitudes Scale)に注目しました。この尺度は環境に対する態度をecocentric (環境中心主義的:自然そのものがかけがえのない価値を持っているため、保護するべきであるという態度)、anthropocentric (人類中心主義的:人間の生活の質や快適さは自然資源の保護や健全な生態系に依存していると思われるため環境保護を支持する態度)、environmental apathy (以下 apathy:環境に対する無関心・無気力)の3つに分けて考えます。つまり、環境問題に対して関心をもっているかどうか、関心をもっているならそれは自然そのものがかけがえのないから生活の快適さのためなのかということを経験紙に答えてもらうことで調べようというわけです。しかし、Thompson & Barton (1994)のEASを日本語訳してそのまま使うにはいろいろ問題があったので、環境問題に対する態度を3つに分けて考えようという考え方をもとに、今回新しく質問項目を作って調査を行なうことにしました。

《研究1 環境問題態度尺度作成の試み》

この研究の目的は今回Thompson & Barton (1994)のEASの考え方をもとに、新しく作った環境問題態度尺度の妥当性・信頼性を検討し、合わせて環境問題に対する態度と行動の関係をすることでした。こんな書き方をすると難しいですね。つまり私が作った態度尺度が本当に環境問題に対する態度を調べるものになっているか、そしてこの尺度で得られた結果を信用しているのか(早い話がその尺度が使い物になるかどうか)確かめ、その上で環境に対する態度と行動の関係を調べたというわけです。その結果、一部の項目に問題はありましたが、尺度として使い物になるということが確認できました。また、態度と行動の関係については、ecocentric (環境中心主義的:自然そのものがかけがえのない価値を持っているため、保護するべきであるという態度)が高いほど環境にやさしい行動を多くとる傾向があることが分かりました。

《研究2:『環境講座』への参加による態度と行動の変容》

この研究では研究1で作成した環境問題態度尺度を用いて、環境問題に関連するプログラムへの参加により、環境問題に対する態度・行動が変化するかどうかを検討することを目的として行ないました。実際に行われている『環境講座』として広島市青少年センターで行われたコースカレッジ広島の環境ボランティア講座の受講生の皆様に講座初日(10月)と講座最終日(12月)に質問紙(環境問題態度尺度、環境的行動尺度、環境にやさしい行動一般に対する自由記述、フェイス項目)に回答してもらいました。その結果、受講生の人数が少なかったため統計的に“講座の前後で差がある”とはいえなかったのですが、より、環境を守ろうという態度をもち、環境にやさしい行動をとる傾向が見られました。(表1参照)

《高校生講座への参加による態度と行動の変容》

卒業研究の研究2と同じ手続きで宇宙船地球号の会が高校生を対象に実施した『高校生環境講座』への参加により、参加者の環境問題に対する態度・行動が変化するかどうかを検討することを目的として行ないました。

その結果、講座初日と最終日の両方に出席した高校生の人数が少なかったため、やはり統計的に“講座の前後で差がある”とはいえなかったのですが、ECO得点(環境中心主義的:自然そのものがかけがえのない価値を持っているため、保護するべきであるという態度)がアップし、逆転前のAPA得点が低下した(無気力な傾向が低下した)という結果が得られました。(表2,3,4参照)

卒論の研究 2 にしろ、高校生講座にしる人数が少なかったので研究結果から今回の講座が効果があったのかということはいふことはできませんが、講座を通してできた人と人とのつながりはきっとこれからも生きていき、他の人の環境に対する関心を実際の行動に移すきっかけになっていくものだと思っています。

表 1 環境ボランティア講座の前後における環境問題態度尺度の合計得点・因子別得点、環境的行動尺度の合計得点の平均値・SD

	環境問題態度尺度								環境的行動尺度	
	合計得点		ECO		ANTH		APA		合計得点	
	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD
講座前	121.80	7.98	30.80	4.35	43.60	3.01	12.60	2.80	42.20	14.02
講座後	124.75	6.60	34.00	2.55	43.75	6.08	12.80	2.95	44.00	14.07

環境問題態度尺度の合計得点と ANTH の平均値と SD は調査対象者 b を除いた 4 名、環境的行動尺度の平均値と SD は調査対象者 e を除いた 4 名で算出している (回答もれがあったため)。環境問題態度尺度の ECO と APA の平均値と SD は 5 名で算出したものである。

表 4 高校生環境講座の前後における環境問題態度尺度の合計得点・因子別得点、環境的行動尺度の合計得点の平均値・SD

	環境問題態度尺度								環境的行動尺度	
	合計得点		ECO		ANTH		APA		合計得点	
	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD
講座前	123.38	9.53	32.75	4.43	45.67	4.69	17.44	7.30	37.89	8.78
講座後	122.29	8.12	34.25	6.04	45.13	4.22	15.00	3.32	37.86	8.87

講座後の環境問題態度尺度の APA 因子得点、合計得点、環境的行動尺度の合計得点の平均値と SD は調査対象者 b・d を除いた 7 名、講座前の環境問題態度尺度の ECO 因子得点、合計得点と講座後の環境問題態度尺度の ECO 因子得点・ANTH 因子得点の平均値と SD は調査対象者 d を除いた 8 名で算出している (回答もれがあったため)。講座前の環境問題態度尺度の ANTH 因子得点と APA 因子得点、環境的行動尺度の合計得点の平均値と SD は 9 名で算出したものである。

注:環境問題態度尺度の合計得点は apathy の項目は逆転項目として計算しているが、APA の得点は逆転前のものであるため環境問題態度尺度の合計得点と ECO、ANTH、APA の合計は一致しない。))

表 2 高校生環境講座の前後における環境問題態度尺度の平均点・SD

項 目	講座前		講座後	
	平均点	SD	平均点	SD
1.酸性雨の問題は湖水が酸性化して死の湖となることである	3.33	1.22	3.13	1.64
2.地球温暖化が問題なのは氷河が溶けて水位が上昇して海岸の平野部が水没する可能性があるからである	4.44	.53	4.38	.74
3. ごみ問題は私には関係ない *	1.44	.50	1.25	.71
4.紫外線は人間にとって、白内障など目の病気が増加する原因となると言われているため、オゾン層は守るべきである	4.44	.73	4.13	1.46
5.川や海の水の汚れは私には関係ない *	1.44	.50	1.25	.71
6.大気汚染はぜんそくの原因となると言われているため空気をきれいに保つべきである	4.33	1.12	4.25	1.49
7.大部分のプラスチックは自然に分解しないため、できるだけ使用しないことが望ましい	4.11	1.36	4.13	.83
8.地球温暖化が問題なのは赤潮が起きやすくなり、カブトガニの生息環境が悪化するためである	3.22	1.20	3.25	1.19
9.私が何かしたとしても川や海の水をきれいに保つことに役立つとは思わない *	2.22	1.27	2.00	1.31
10.酸性雨が問題なのはコンクリートを溶かすと言われているからである	2.89	1.36	4.00	.76